

校内研究会 12月18日

中学年分科会授業提案

第4学年 道徳 主題名「友達だから」 2-(3) 友情・信頼
資料名 絵はがきと切手 (文溪堂) 指導者 中野 翔太

授業の流れ

- 1 はがきをもらった経験について聞く。
- 2 「絵はがきと切手」を聞いて話し合う。
- 3 これまでの自分の生活を振り返って考える。
- 4 教師の説話を聞く。



協議会

<分科会提案>

定形外のはがきに別料金が発生することをおさえ、資料への導入を図るようにした。また、母の主張と兄の主張を受けて、悩むひろ子の気持ちを理解しやすくするために、黒板の中央に中心発問と児童の発言を整理して配置した。終末に授業者自身の友達との信頼についての経験を語り、児童が友情や信頼を深めていこうとする心情を育てられるようにした。



<自評>

○4年1組

- ・教師がしゃべりすぎた。普段の生活の様子を見た課題から授業内容を考えた。
- ・展開後段でこれまでの自分の生活について書けない時にどう支援したら良いのか悩んだ。

○4年2組

- ・今回は友情信頼の中でも信頼に重きを置いたが、難しい内容・資料だった。
- ・自分たちの生活を振り返らせるための発問になるように悩みながら授業を考えていった。

<協議>

- ・導入から展開までの流れがすっきりしていた。定形外はがきを見せることで資料への興味につながっていた。
- ・板書が工夫されていた。黒板中央に悩むひろ子、右側に兄の主張、左側に母の主張という構成が非常に分かりやすく、練られていた。
- ・展開前段での板書の順序が逆のような気がした。兄の主張について出た意見はその時に板書したほうがよかった。
- ・中心発問で深く考えさせるためにたっぷり時間を取りたかった。
- ・子供が出した意見は笑顔で受け止めたい。

指導・助言

文部科学省教科調査官 赤堀 博行 先生

○ねらいとする価値にせまるために

- ・ねらいとする価値にせまるとは、道徳的価値に関して今の自分の自覚を深めること。
- ・道徳の時間の指導の工夫は、「道徳的価値の自覚を深める」ために行う。

○指導案について

- ・指導案は日頃の子供たちの生活を見て「①主題設定の理由②児童の実態③資料について」の順に考えていく。価値観(ねらいとする価値)については、児童の実態があって方向付けられることなので、児童の実態のところに書く。

○まとめ

- ・自分のはがきをもらったときの気持ちについて聞くという価値への導入と定形外はがきを紹介するという資料への導入の二つのことに関する導入がよかった。
- ・道徳は、自分自身では実行できないことを主人公に託して意見を言うことができる授業である。児童の意見は自分の生活経験が根拠となっている。
- ・結果が分かってしまうと意見が偏ってしまう恐れがあるため資料を分割して読んだ。しかし、結果はあっても途中で揺れ動いている思いで考えさせることが大事である。